

ホウレンソウを核とした 周年出荷産地の強化

計画年度：令和 6～8 年度

東部農業事務所担い手・園芸課

課題設定の背景および理由

薮塚地域 … 全国有数の小玉スイカ产地

(昭和40年代～)



価格低迷でホウレンソウ栽培周年化・増加

(平成初期～)



難防除病害虫被害多発・夏期高温で生育不良



病害虫対策の検討

夏期代替品目の検討

1 難防除病害虫対策の推進

(1) ホウレンソウベと病対策の推進

- ①アンケートを元にした防除体系の確立
- ②生育初期における適正防除の推進

(2) ホウレンソウケナガコナダニ防除体系の確立

- ①土壤消毒実証ほの設置
- ②総合的な防除体系の確立

2 高温期代替品目の推進

- (1) コマツナ等葉菜類の推進
 - (2) 大玉・黒小玉スイカの新規作付推進
- ①スイカ産地の強みを活かした作付推進
 - ②高温対策実証圃設置

到達目標（目標年次の姿）

	R5	R6	R7	R8
ホウレンソウ 出荷量 (t) ※1	4,858	4,900	4,900	4,900
高温期代替品目 新規導入数 (戸) ※2	-	16	16	20

※ 1 JA太田市出荷量

※ 2 ハウス栽培品目、のべ戸数

ホウレンソウベと病対策

一度発生すると被害が急拡大し、防除不可能となり大きく減収



以前はホウレンソウの品種が持つレース抵抗性により対処していた

R3年度に管内全域で深刻な被害

【被害発生の主な要因】

暖秋・暖冬で生育状況が変化、発病好適時期も長期化
品種のレース抵抗性頼りで、防除が疎かになっていた

活動経過および結果

べと病対策

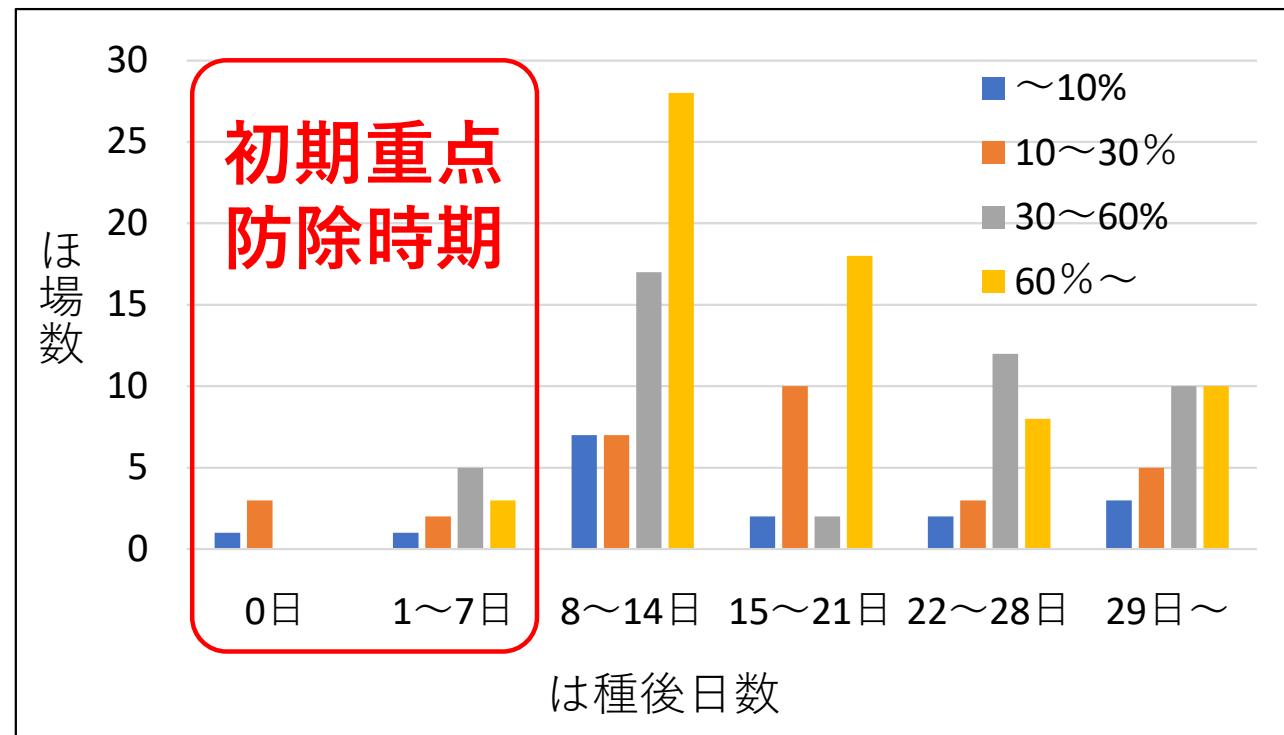
被害が大きいほ場で
初期防除できていない

JA太田市初期防除薬剤
購入補助件数※

	戸数	防除面積
R4	91名	5.48ha
R5	64名	3.39ha
R6	65名	4.66ha

※ユニフォーム粒剤

1回目の防除時期による発生率の違い



初期防除を呼びかけ



初期防除の普及により大幅減

ホウレンソウケナガコナダニ対策

土壤や植物体上に生息し芯葉を加害する難防除病害虫
同一ハウスでの作付回転数増加に伴い被害拡大



登録薬剤や土壤消毒剤を使用するも効果が得られない事例多数



防除の体系化が重要

活動経過および結果

ケナガコナダニ対策実証ほ

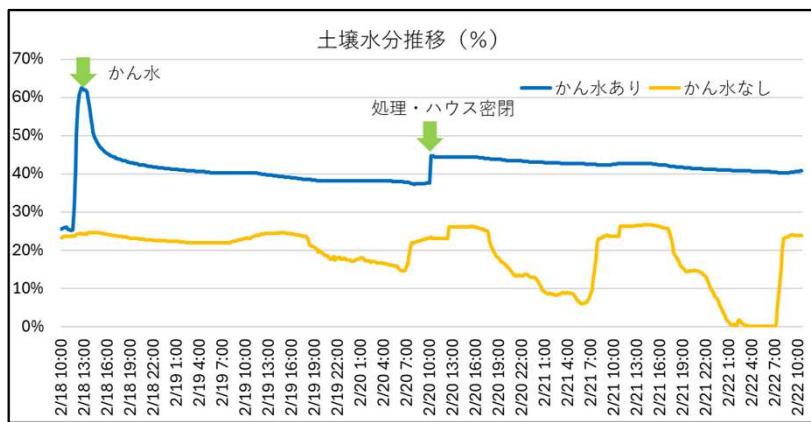


土壤水分：乾
気温：高

土壤消毒効果不安定



土壤消毒時の土壤水分による効果の違いを検証



防除体系を作成

R7年度から栽培講習会、JAによるLINE配信で周知中

代替品目作付推進

高温期代替品目に関する講習会開催状況

研修会	期日	人数
大玉スイカ目揃え会	R6.6.3	11名
大玉・黒小玉スイカ栽培講習会	R6.10.10	6名
高温期代替作物栽培講習会	R7.4.10	29名
大玉・黒小玉スイカ現地研修会	R7.4.24	20名
モロヘイヤ現地研修会	R7.6.2	20名

代替品目作付推進（葉菜類）



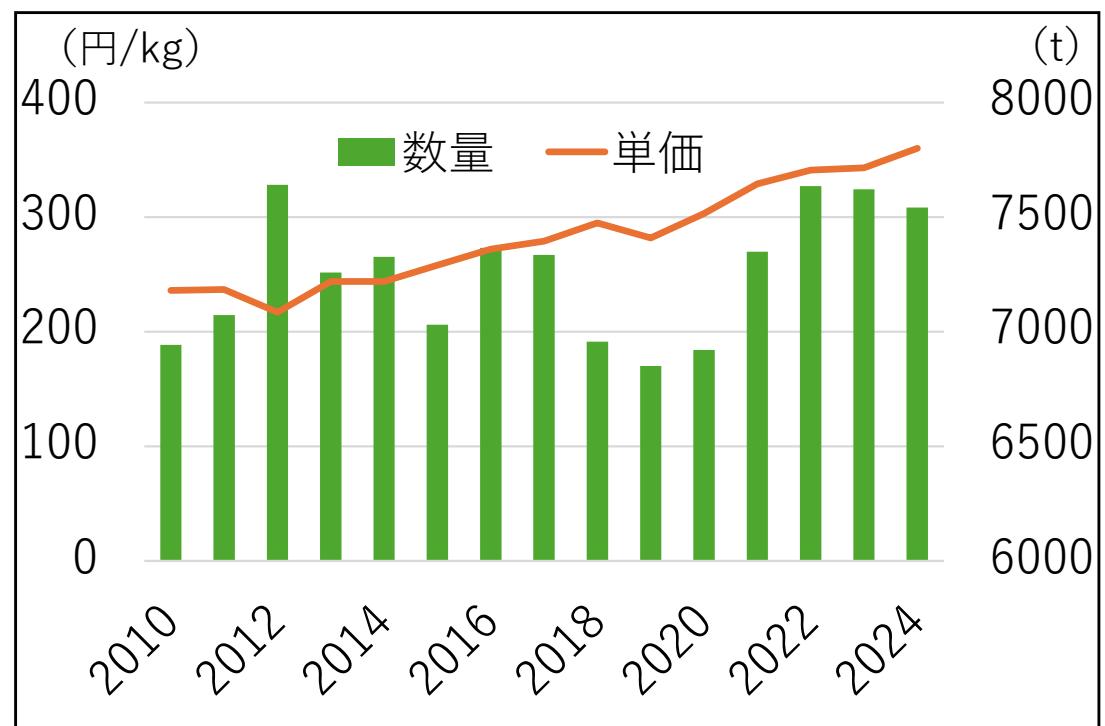
R7 新規作付者数

品目	人数
コマツナ	1名
モロヘイヤ	3名

外国人実習生・雇用を活かした経営体で導入

代替品目作付推進（大玉スイカ等の試作）

全国のスイカ産地で作付減少・需要の変化
→ 長年低迷していたスイカ価格の上昇



需要に応えるための
熟練した栽培技術
+
春～夏の品種リレー
↓
スイカ産地「敷塚」
ならではの新たな道

代替品目作付推進（大玉スイカ等の試作）

大玉スイカ（品種：金色羅皇）



熟練農家の高度な栽培技術が必要

代替品目作付推進（大玉スイカ等の試作）



出荷規格・荷姿の検討



栽培技術の研鑽
希望者への作付推進

R6年度（栽培初年度）販売金額290万円

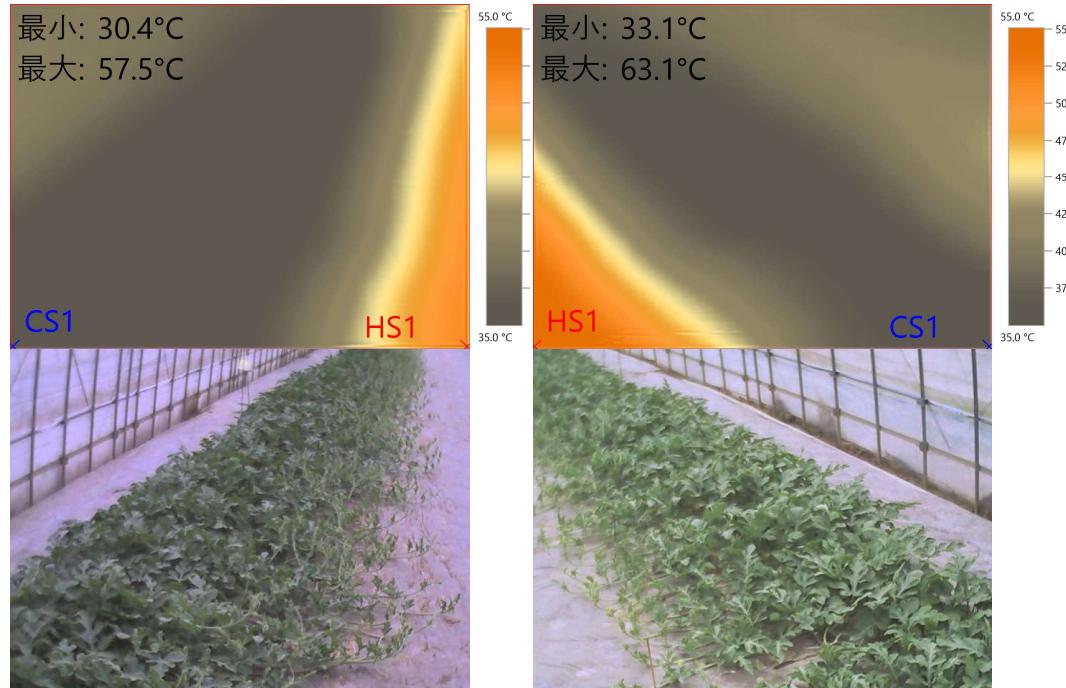
スイカ高温対策実証ほ (R7)



【遮熱剤あり】



【遮熱剤なし】



ハウス被覆への遮熱剤塗布

需要の高いお盆出荷に向けた安定生産技術を目指す

大玉・黒小玉スイカの新規導入が順調に増加

	R5 現状	R6 目標	R6 実績
ホウレンソウ 出荷量 (t) ※1	4,858	4,900	4,362
高温期代替品目 新規導入数 (戸) ※2	-	16	16

※1 JA太田市出荷量

※2 ハウス栽培品目、のべ戸数

ホウレンソウ病害虫対策

ホウレンソウケナガコナダニ防除体系の普及

栽培環境の変化による斑点性病害増加への対策

スイカ夏期高温期安定生産対策

スイカ夏期高温対策・土壤病害虫対策

スイカ栽培技術の次世代への継承

→ **ホウレンソウとスイカを柱とした
産地形成へ**